



「アウトドア・アクティビティ拠点施設」が
いよいよ来年オープン予定！

オープンに先駆けて、留萌で出来る
アウトドアアクティビティを紹介していきます！



今月のインタビュー

NPO法人 留萌観光協会

会長 佐藤 太紀 (さとうたいき) さん

プロフィール

出身地／留萌市

略歴：2005年NPO法人留萌観光協会に入会。理事、副会長を経て2024年会長に就任。

NPO法人留萌観光協会について教えてください。

1999年の「SL すずらん号」運行をきっかけに、留萌の観光を盛り上げようと先輩有志各位により、地域のアンテナショップ「お勝手屋 萌」をはじめとする物産振興を軸に活動がスタートしました。その後ゴールデンビーチるもいや黄金岬、海のふるさと館などの観光施設や留萌地域の玄関口である「道の駅るもい」における事業やイベントにも注力してきました。

現在、観光は「北海道の総合産業」と言われています。観光を通じて留萌の資源の可能性を最大限に引き出し、地域価値の総量を押し上げ、地域の我々も来訪する方々も楽しく心地よく感じ続けられる観光地域づくりを目指しています。

アウトドア事業について教えてください。

留萌を目的地としてたくさんの人に来てもらい、さらには長く滞在して楽しみながらお金を使っていただくことが、観光産業の大切な役割です。コロナ禍によりアウトドアが全国的なブームとなり、それがここ数年で、多くの人の趣味として定着、あるいは人の生き方として見直されるようになりました。そのような時代の変化を受け、留萌の持つ豊かな自然を存分に満喫してもらい、それを経済価値に変換できるアウトドア観光事業を留萌市と協力して開始しました。SUPなどのパドルスポーツや登山、トレッキング、サイクリング、スノーシューなど、この地域にはすでに多くのアウトドア愛好者がいて、たくさんの知見が蓄積されています。そこで当協会が事務局となり、愛好者の方々がネットワークを作り、情報の共有やイベント、体験会などの事業拡大を目的とした「るもいアウトドア観光ネットワーク会議」を2023年に構築しました。

地域の人も
来訪者も心地よく



道の駅るもいを発着点に行われている
ロゲイニング▶

◀留萌ダムで行われているSUP



これからの取り組みについてお聞きします。

すでにアウトドアに親しんでいる方はもちろん、富良野やニセコのように、手ぶらで来てもアウトドアを楽しめる受け入れ体制を早く実現したいと考えています。また、資源は豊富な一方、アウトドアガイドが不足しているのが現実です。地域おこし協力隊のお二人が仲間となっただいたことはとても心強く感じていますし、これからの留萌地域の活性化に力を貸してもらえるもことを大いに期待しています。

アウトドア・アクティビティ拠点施設に何を期待しますか。

全国トップクラスのアウトドアメーカーであるモンベルが出店され、同じくアウトドア体験メニューやフィールドでの楽しみ方を紹介するビジターセンターも設置されます。これによりアウトドア・アクティビティの充実が加速するのはもちろん、「留萌＝アウトドア」というイメージの伝達力強化が見込めるものと考えています。

また留萌地域の農畜産物や海産物などの食の魅力を発信する施設でもあることから、道の駅るもい、そして留萌地域の新たな目的地の一つとして来訪者も留萌市民も集い、ワクワクを胸に豊かで心地よい空間となることを期待しています。

アウトドア・アクティビティ拠点施設の概要については、留萌市ホームページよりご覧ください。

留萌市
ホームページ
のQR▶



TRY留萌のアウトドア体験

NPO 法人留萌観光協会では、留萌でできるアウトドア体験を紹介する専用ホームページを開設しています。

ぜひ右記のQRから
ご覧ください。



詳細情報は
こちら▶▶



【問合せ先】市・経済観光課 42-1840